

見西行うしろ向きむきみ文蛤馬鹿柱柱は二階と縁の下下谷上野の山かつら桂文治は嘶し家でぞんでん太鼓に笙の笛闇魔は盆とお正月勝頼さんは武田菱菱餅三月雛祭祭萬度に山車屋臺大閻様は關白じや白蛇の出るのは柳島編の財布に五十兩五郎十郎曾我兄弟鏡臺針箱煙草盆ばんやはい子だ寝んねしな品川女郎衆は十匁十匁の鐵砲玉玉屋は花火の大元祖宗匠の居るのは芭蕉庵あんかけ豆腐に夜鷹蕎麥さうばのお鉦がどんちやんくどんちやんかあちやん菓子おくれお暮が過ぎたらお正月お正月の寶船寶船には七福神神功皇后武内内田は劍菱七つ梅梅松櫻は菅原で藁で束ねた投げ島田島田金谷は大井川かはいけりやこそ神田から通ふ通ふ深草百夜の情酒と肴で六百出しや氣まよまよ三度笠横ちよにかぶり頭堅にふる相模の女寡婦に花が咲く咲いた櫻になぜ駒繫ぐ繫ぐ鬘になぜ大象と

まる丸い卵も切りやうで四角角に出やせぬ窓の月月に叢雲花に風風に柳は私の胸よ宗盛さんは熊谷で熊谷繩手は四里八町蝶々とまれよ菜の花へ……………

かくして殆ど口出まかせの文句を尻付につけゆくなり。

尻とり歌に因みて駄洒落詞について記し置くべし、駄洒落詞は他に洒落ていふ時に屢用ひらるゝものにして、兒童等が使ふよりは寧ろ店者職人などの通がるともいふべきものゝ間に行はるゝなり、かけ詞なるあり、地口なるあり、尻づけなるあり、文字鎖なるあり、謎なるあり、これを合せたるあり、その二三をいへば、

結構づ洲砲のお稻荷さん。 さうで有馬の水天宮。

しやれの内堀の御祖師様。 うそを築地の御門跡。

大違ひカ雑司の鬼子母神。 恐れ入谷の鬼子母神。

どうか下谷の廣徳寺。 なんのかんのん、淺草観音。

腹は數寄屋河岸、目は丸の内。

さうか越谷、千住のさき。

あばよ、芝よ、金杉よ。

あたりき車力、按摩の足力。

うまかつた、牛まけた。

おいしかつた、戸名瀬まけた。

よすぎてきて、夜過鳥が啼く。

葛西の火事で糞やけた。

仕事は神田で、お飯は越後だ。

などの如し。例へば、日光の靈廟なんかと來たら、實に結構づのお稻荷さんよ」といふが如く、見たと聞いたとは、まるつきり大違ひの鬼子母神さなどといふが如くに用ひらるゝなり。

第四節 四季の遊賞

都下の地は、もとこれ古への武蔵野の端なれば、概ね平遠にして、唯丘陵の起伏せるを見るのみ。道灌山といふも、飛鳥山といふも、山の名あれども岡に過ぎず、山といふ山はなけれども、岡あれば眺望に乏しからず、川は近くに隅田川あり、遠くに多摩川あり、一はいざ言

問はんと歌ひし都鳥の名所、一は我國六つの玉川の一にして、共に風景に富む。海は品川沖に面して、遙かに房總の山を望むべく、いづれも舟遊に適へり。

梅見 春の初めは餘寒未だ去らず、風尙ほ身に染みわたるに、南枝の一二りんの早く綻びかゝりて、時を報ず。日長閑ならざれば、櫻狩の時には比すべくもあらざれど、所々の梅園に杖を曳く客少からず、最も著しきは龜戸の臥龍梅にして、次いで小村井の江東梅園、木下川の梅園、向島の百花園、遠くは大森の八景園、蒲田の梅園、小向井の梅園等、近郊に有名なるものなり。就中臥龍梅は龜戸神社の東北四町許にありて、園の名を清香園といふ、老幹鐵枝蜿蜒として眞に臥龍の名に背かず、臥龍の名は水戸光圀の命ずる所といへり。園内にて名物の梅干を賣る。この邊に鯉こく、鯉料理等の料理店二三軒ありて、花時には頗る雑踏を極む。江東梅園、木下川の梅園等これよ



龜戸の野梅

り遠からざれば、遊客これを巡覽し、向島の百花園にさへ廻はりて、一日の良遊をなすも多かり。百花園には壽星梅名あり。されば初卯詣、妙義詣、さては梅見と、歳を始めより三月の中頃までは、龜戸邊の音信のみなれば、春の賑はひはこの邊より起る心地すめり。また大森蒲田・小向井邊を周覽して、一日の清遊を試むるもあれば、遠くは汽車の便を藉りて、杉田の梅林・水戸の常磐公園に遊ぶも少からず。

櫻狩 やがて春雨絲の如く降り

て、何となう温もる頃には、彼岸櫻咲きそむ、上野清水堂の邊よろし。名に高き秋色櫻も枯木一株に昔の佛を留めぬ。櫻は向島最も盛なり、長堤十里の櫻雲と見まがふばかりに咲き満ちて、花の天井を被ひたらんが如し。三圍の鳥居前より牛御前・長命寺の邊までいと盛りに、白髭梅若の邊までも咲きに咲きたり。側は漂渺たる隅田の川水青うして、白帆に風を孕み、波に眠れる都鳥の船楫に夢を破られて、飛び立つ羽音も物だるげなり。待乳山の森・淺草寺の塔の影、いづれか春の景色ならざる、實に帝都一の眺めなり。懸茶屋には絹被の芋・慈姑の串團子を陳ね、榮螺の壺焼なども鬻ぐ。百眼賣つけ髭賣。蝶々賣・花簪賣・風船賣など、或は屋臺を据ゑ、或は立ちながらに賣る。花見の客の雑踏狼藉は筆にも記しがたし。明治三十三年四月十五日官の厄介となりし者、酩酊者二百五人、喧嘩九十六件、内負傷者六人、違警罪一人、迷兒十四人と聞く。雑踏狼藉の状態すべし。枕橋より先きは車を禁め、警官途を分ちて、往さ來るさの客を制す。今戸・白



花見の異装

髭橋場の渡船は沈まんばかりに人を積み、名物櫻餅、言問團子の店は、家の崩れんばかりに込あふ、實に是れ都人一年一度の櫻狩、恥も世間もうち忘れ、風流なるは瓢を腰にし、下卑たるは樽を肩にす。會社員の一隊、立屋子供の一群、衣裳の揃ひ、或は手拭、日傘の揃ひに、思ひくくの數寄を凝らし、中にも人の笑ひを買はんとてや、海蘿の上下に、櫛木の大小を手挟み、一文字の大番つけて、ノソリノソリとあるく、あるは鬚むちや男の島田の鬘を被り、白粉こてくけ

はひし、友禪縮緬の娘、衣裳に、緋の長襦袢の片肌ぬぎ、女帯をお太鼓結びにしてしやなりくとねる、あるは大男の頭青く剃りて、河童に残し、萌黄の着物にこくもちの大紋つけたる童子姿、裾短かに脛毛の馬足をあらはして興じあるくさまなど、そのたわけさ謂ふべからず、はた謂ひ難し。水上には花見船の一群、三絃太鼓うち鳴らしてさゞめくもあれば、年少血氣の壯者ばらは、花を眺めの外にして、端艇を競ふもあり。汀に近く徐かに泛へたる屋根船の一艘より、折々に漏るゝ爪弾きの音、心憎くも、なまめかし。近年、官風俗取締の上よなすことを制すれど、この稿及び圖版、既にその前に成りたれば、今俄に改め難き事情あり、乞ふ諒せよ。

寺門靜軒曰へらく、墨水櫻花、皆重瓣、上野、則並單瓣、重瓣濃、而單瓣淡、予戲評之曰、墨水之花、似吉原娼、上野之花、似深川妓、と、吉原の娼、深川の妓、余の知る所にあらざれど、尙ほ濃粧、淡粧の別あるが如きか。上野の花は向島に比すれば見頃常に早し、清水堂、榎鉢山の邊殊によ



見花の野上

し。動物園・美術学校の前は、場廣く櫻の林なれば、遊客こゝにまた群集す、この邊の花見は、向島と稍趣を異にし、見物の人々、花の下に毛氈しき、重詰うち開きてざゞめく、やがては老若男女の別ちなく、一座總立ちとなりて、手を繋ぎあはせ、西洋鬼をなすもあれば、尻に繋がりにて、子をとろ子とろをなすもあり、額の波あらしき程の女が鬘も素れ、帯も解けがちに、しどけなきさまとなりて、若き男と狂ふさまな

ど、見るも淺まし。女のへゞれけさへ少からざれば、まして男の呑みつぶれ、酒に性根を亂して暴行を極め、喧嘩吹きかくれば、此方も負けず劣らずに争ひ、はては血を見ること、日に幾何あるかを知らず、中にも機嫌上戸の、見る人を延きて、酒を強ふるも愛嬌あり。飛鳥山は偏陬にありて、遊客他に比して少けれども、場廣うして、山の上、花の下は、一面の芝生、筵を敷けるに同じければ、運動會の催しには最も適ひて、花時には一入多かり。花見の趣は上野に似たれども、また趣を異にす、簀懸の席を借りて、終日酒宴を開くが多かる中に、藝自慢の若者ばら、人見よがしに手踊などして興ずる、厭味たつぶりの風情、見るもなか／＼忌々しげなり。小金井は都門を距ること七里餘、道遠けれども、汽車に投ずれば暫しの間に達すべし。多摩川上水を央にして、兩堤の櫻幾里の間につゞけるを知らず、向島に比すれば、樹々大きく、石切橋の畔最も盛り

なり。近き頃より料理屋さへ設けられて、俗了せられぬるは惜むべし。鮎の鮮名物として著しけれど、名物に美味きはなしといふ譬喩に洩れず。都人また三粒など齋らし來りて、歌ひつ舞ひつするもの多し。この地、花の盛りはもとよりながら、青葉の梢若やかに、芳草萌え出づる頃の景色は、俗客の足も稀れにして、池塘春草生といへるも思ひ出され、轉た趣あるやに覺ゆ。

その他、都下には靖國神社、星岡を始め、近く品川の御殿山など、いづれも櫻時には花の林となりて、遊客少からず。江戸川もまた花の名所に數へられて、新小金井の稱あり。中橋をこそ小金井の石切橋に比ふべけれ、橋の上よりの眺めは、兩岸の櫻花一條の流れを夾みて、はてもなく咲つゝきたるが如く見ゆるに、遠く霞に籠めたる目白臺は、花を衾に、寐ばけたる顔さし出したるやの風情あり。なべて此地は土味櫻樹に適ひけん、到る處に櫻のなきはなく、またその生ひ

たつことも速かに、大いなる樹も珍らしからず、洵に花の都といひつべし。誰れやらんがいひしに、東京は花の都にして、京都は紅葉の都なりと、實にしかぞ覺ゆ。

桃見 桃も近村に六郷・羽田・中野・大澤・越谷など名あれど、その花、櫻に比して劣るが上に、上野・向島の櫻に酔ふ頃なれば、これを願るに暇なし。

潮干狩 この頃、また潮干狩の遊びあり。多くは中流以下の遊びにして、陰曆三月三日前後を以て最好の期とす。洲崎・芝浦臺場沖の邊は、海潮遠く退けば、一面の砂地となりて徒歩すべし。これに遊ぶものは、満潮に乗じて船を寄せ、干潮を待ちて下り、砂中を探りて、貝を拾ふもあれば、蟹を追ふもあり。貝は蜆・文蛤・馬鹿蛤・刺等なり。若き女の手拭かぶり、紅の手襷かけて、裳を褰げて、素洗足に馳せありくさまは、何となう春めかしく、田舎の田植にあらずんば、宇治の茶摘み

にも似たらん。いづれも船に
乗り出でて集ひ來ることな
れば、我が船見失はじと、舳艫
に幟吹流し、さては子供の着
物を竿に吊るすもあれば、箆
籬を高く掲げたるもありて、
目印めすゝの思つきさまざまなり。
かくて満潮みづうしほの時を考へて、各
船に歸るなり。歸りて後には
獲物を料理して、酔ひつ歌ひ
つ、日の西に入る頃に至りて
散ず。

摘草 一刻千金の春の日も、

潮干狩



かくの如くして暮る、山に遠ければ山の遊びなし、近く蕨あざみの生ふる
野邊もなければ、蕨採の興も、大宮邊までは出かけざるべからず。摘
草には、鶏腸けいじょう兒、蒲公英ぼくげい、芹せり、三葉さんえつ、土筆菜つちふしななどを摘むに向島、早稲田、高
田、雑司、谷田端、三河島などよかるべし。
躑躅つとむと藤 明治の初めまでは、染井の躑躅、巢鴨の菊とて盛なりし
に、何時しか菊は團子阪に移り、躑躅は大久保に限るやうになりた
り。大久保の躑躅はもと百人同心の慰みに躑躅を培養せしに始ま
り、維新の後は却つてこれを本業とするものを生じ、花戸またこゝ
に集りて躑躅の名所とはなりぬ。一戸に數百株もありて、幹の高く
梢こゝろの大きいなること怪まるゝばかりに、紅べにの花ふさくとつきて、遠
く望めば紅絹べにきぬの被衣かきを晒したらんが如し。甲武鐵道の便開けしよ
り、殊に賑はひ出だして、躑躅人形などの觀せ物さへあれば、酒、辨當
を齎らし行き、こゝに氈じゆんを敷きて、浮うきいつ浮うきかれつする客少からず。

小石川植物園、日暮里の花見寺、上野の穴稻荷、音羽の護國寺などまたその名あり。

藤花は、龜戸神社のもの名あり、太鼓橋の邊、樓門の左右、池に臨みたる茶屋、茶屋の赤毛氈の、緑なる水に映ひて、いはれぬ風情あるに、一面にわたしたる棚に、藤の若葉の青やかに茂りて、若紫のふさくしきが、滴るやうに垂れたる、年増女の婀娜めきたる鬘結へるが、薄紫の手柄かけたたる



藤の社神ノ龜

趣あり。小日向茗荷谷の藤、寺根岸の藤寺、芝公園の辨天堂など、その名あれど、さほどのものならず。

新樹 上野・向島・飛鳥山・さては星岡・靖國神社など、櫻の若葉の茂れる頃には、人も静かに、青々しき色の、いかばかり見る人の眼を養はんとする、殊に上野・星岡など、丹塗の殿堂、或は茶店の赤毛氈の樹の間かぐれに見えつ、隠れつするさま、得もいへず。道灌山・日暮里の邊、青葉の茂みの間ひより、田端千住の田野を望みたる風景よし。瀧の川の紅葉、秋の眺めは格別ながら、この頃の風景また趣あるなり。

牡丹と薔薇 牡丹は本所茅場町の牡丹園(四ツ目の草文)のもの、殊に見事なり。紺と白とを市松に張りたる雨掩障子の下に、我が物顔に咲き亂れたる、實に花の王の驕慢なる姿さこそ。紅、白、淡紅、紫など種類多し。いづれも攝州木部種なりと聞く。目黒の料理屋にも、牡

丹園を設けて、客を引く、恰も名物筍飯たけのこめしの春はるなる頃なれば、旁、これを見る人少からず。芍薬も草文を始め、所在の花戸に養ふが多かり。薔薇は向島の長春園最も著しくして、主としてこれを培養すれば、種類また最も多し。その他、駒込動阪うまがの花戸などにて養ふもあれども、西洋人ほどに一般これを賞美することなれば、盛に客を引くに至らず。

花菖蒲 花菖蒲は堀切村南葛飾郡の菖蒲園小高園より優れたるはなし、概ね六月中旬を盛りの頃とす。初め文化の頃、この村の百姓伊左衛門なる者、こゝに花菖蒲を培養せしに始まり、次第に奇品を増殖し、今日の盛なるに至り、その種類二百五十餘種に及ぶといへり。時候もはや暑氣に向ひ、道の便も宜からざれと、見る花に乏しき頃とて、こゝに遊ぶ客少からず。その他、同村の武藏屋、本所松倉町の尙花園、三河嶋の喜樂園等名あり。

螢狩 螢は江戸川、關口臺の邊、或は谷中螢澤など名あり。夕暮には、その邊の子供、水邊の叢を踏みしだきては、螢を追ひもすれど、わざ／＼この邊にまで來りて、螢を見んといふ物好きは稀れなり。大宮公園は螢の名所など稱へらるれば、汽車の便を藉りて、こゝに遊ぶ人も多けれど、螢の有無を外にして、一夜の清遊を試むるに過ぎず。



堀切菖蒲園

朝顔と蓮 夏も深うなりて、浴衣時となれば、入谷邊の朝顔園賑はふ。朝顔人形の觀せ物などあれば、朝顔の簪、または造り花などをも列ぬ。早起に苦まざる頃とて、明け方より賑はひ、日高く上る頃に至りて漸く散ず。朝顔流行の世とて、鉢植を購めて歸る客多ければ、入谷のみにても年々賣り捌く鉢數三十萬個に下らずといへり。不忍池の蓮もこの頃に咲きて、紅蓮・白蓮交



入谷の朝顔

りて清淨無垢の姿を競ふ。辨天堂の後よりの眺め、殊に一入なり。入谷行き客の先づこゝに立ちよりて、蓄を破る音に寝起きの胸を洗ふも多く、上野根岸邊の茶店・料理屋などは朝來の繁昌なり。その他に、芝公園、向島、秋葉裏など蓮池少からず。

納涼と瀧 兩國の夕涼みとて、昔より名あれども、川開に一たび大熱鬧を極めて、さてその後は涼船を備うて涼を追ふ客は、却つて稀れくにして、芝浦大川端など、水邊の料理屋に暑を避けて酒を酌むがせめてもなり。今の人なべて世智賢こくなりたれば、屋形船を兩國あたりに泛ばする程の、錢と閑とあらんには、二三夜泊りに、返子・大磯・箱根と駆けまはり、温泉の、海水浴のと、仰山に吹きたて、當世風を氣取るなるべし。瀧は山なき土地のこととて、瀧といふ程のものなし。目黒不動の瀧、名あれども、雨垂れに稍大なるのみ。角筈の十二社のは、これに比して、稍太しと雖も、甚た低くして、瀧ともいひ

難し。その他、瀧の川辨財天、四谷津の守阪等に、その設けあれども、いづれも小なり。料理店などには、酷暑の節一時汲み上げの瀧を開きて、呼び物とすれども、寧ろ兒戯に等しきものゝみ。

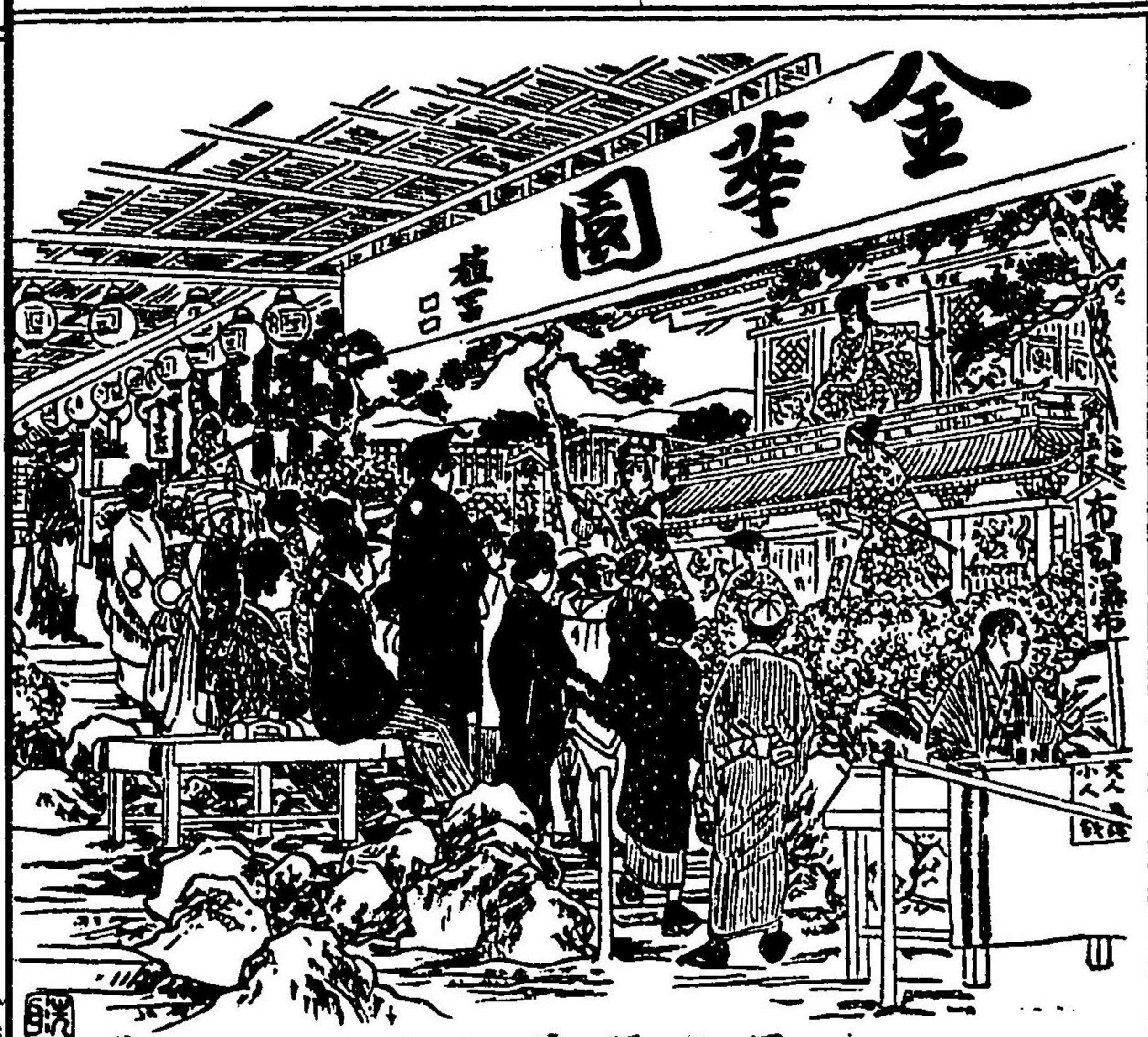
秋草と蘭蟲 はや秋風立ちそめて、野邊の草花咲き亂る頃には、七草見とて、向島の百花園に遊ぶも多し。百花園は白髭社畔にあり。文化中、佐



向場百花園

原鞠場の開きしものにして、大窪詩佛が春夏秋冬花不斷、東西南北客争來、と題せし所なり。俗に花屋敷と稱ふ。梅・桃・櫻はもとより萩・桔梗・女郎花、或は芒・刈萱・地榆など、雑多の草花を栽ゑて、四季の眺めを絶やさず。園内にて梅干と隅田川焼とを齧く。都鳥の置物など、此處の名産なり。萩には特に龜戸の萩寺(龍眼寺)名あり。寺境廣からざれば、京都高臺寺などには比すべくもあらず。道灌山の蟲きゝは、古來花曆などの中にはあげられたれど、物好きなる閑人にあらざる限りは、風流もこれまでには至らざるべし。

月見 武藏野の昔は古歌に詠まれたる月の名所ながら、二里四方の中に蔓を敷きつめたるが如き今となりては、それと指すべき名所もなし。たゞ芝浦・洲崎の邊より海上の眺めは、殊によかるべく、愛宕・九段・兩國・待乳山、或は伊皿子臺などより望めば、各異なる眺めありべし。



園子阪子菊人形

菊見 菊は駒込園子阪著しく、皆花戸の養へる所にして、唯花の見事なるをこそ賞美すべけれ、清高なる趣はこれを見ること能はず。いづれも戸毎に舞臺を構へ、當年興行の演劇の藝題などを取りて、菊にて人形を作り、それく俳優の顔に似せ、廻り舞臺せり上げ、道具を設くるなど、さまざまに意匠を凝らせり。概ね資金幾千圓を費すとい

へり。されば、かゝるたわいもなき作り物、却つて主となりて、花壇に植ゑつけられたるは、殆ど客となりたり。十月の季より始まり、十一月の下旬に至る。小春日和のうちつゝくに、人の遊處に乏しき折柄なれば、自ら集ひ來りて雑沓を極む。

紅葉 紅葉は品川の海晏寺、瀧の川など名あり。わきて海晏寺の紅葉は古くより音に聞えて、龍田・高雄も及びない



品川の紅葉

ぞへ紅葉狩と謳ふも、寺境狭きが上に楓樹も少く、龍田・高雄に比すべくもあらず。瀧の川は却りて海晏寺に勝りて、辨天堂の裏手の懸崖の邊より、川を隔て、對岸を望みし風光、得もいへず。夕日にはえたる紅葉の色、實に蜀紅の錦をも欺くべし。梢に歌短冊を結びて歸る風流人もあり。懸茶屋には衣かつぎの芋を賣る。近き頃より紅葉煎餅、賣山椒をも名物の如くに鬻ぐ。

枯野と雪見 霜枯れの梢寂しうなりて、庭に散りしく落葉の重なる頃は、東台の景色さへ凄うなるべし。向島・早稻田・雜司・谷邊の枯野を見んとて、逍遙する人もあるなり。雪見は向島こそよけれ、屋根船など浮ぶる人もあり。不忍池の眺めは、上野の森の眞白になりたるに、辨天堂の丹塗に塗りたるが、ひとしほ色はえて見ゆ。蓮の枯葉の下に、鴨の羽顛ひするも寒げなり。九段阪・愛宕山などよりの眺めは、廣き武藏野の雪を偲ぶべし。日枝神社の、常は森々として神寂びたる杉木立の、却つてあざやかに見らるゝも尊く、早稻田あたりの野邊に、飢ゑたる雀の囀るも哀れなり。

東京風俗志下の巻 大尾



東京風俗志索引

○語の排列は、五十音の順序に従ふ。
 ○漢字音に関するものは、概ね文部省新定字音假名遣ひに準ず、但し「し」を「う」にかへて求むべし。例へば「こう」も「かう」も「こう」に、「せう」も「しょう」も「しやう」も「しよ」について求むるが如し。
 ○「ん」は「む」の次に排置す。
 ○濁音、半濁音は、それが清音の次に排置す。

(あ) 赤阪區	(上) 三二	赤にし	(中) 二八一	浅草觀世音堂	(上) 二二七
赤阪區の神社	(上) 三三	赤えひ	(中) 二八一	浅草觀世音堂修正會	(中) 三三
赤阪區の寺院	(上) 三三	赤馬車	(中) 二〇〇	浅草觀世音堂の繪馬	(上) 三三
赤阪區内の緣日	(上) 三三	(あ) 惡魔拂	(中) 七	浅草神社	(中) 三三
赤阪奴	(中) 三三	(あ) あげ巻	(中) 二二	浅草公園の仲店	(上) 八七
赤城神社	(中) 三三	(あ) 浅草區	(上) 三三	浅草歳の市	(中) 三三
赤切れの妙藥賣	(上) 三三	浅草區の神社	(上) 三三	浅草袋市	(中) 三三
赤がひ	(中) 二八一	浅草區の寺院	(上) 三三	浅草の鐘	(中) 三三
		浅草區内の緣日	(上) 三三	浅草の觀せ物	(中) 三三
		浅草公園	(中) 二八一	麻布區	(上) 三三

麻布区の神社	(上) 三〇	愛宕の石段	(上) 二三	わなご	(中) 二八
麻布区の寺院	(上) 三三	愛宕の千日詣	(中) 三六	(あね) 姉さんごっこ	(下) 二五
麻布区内の縁日	(上) 一四	愛宕の歳の市	(中) 一六	姉さま賣	(下) 一五
麻裏	(中) 一四〇	(あぢ) あぢ	(中) 二八	(あは) わはび	(中) 一八
麻の葉	(中) 二六三	(あづ) 吾妻形	(中) 二七	(あは) 扇子車	(中) 一八
朝商ひ	(上) 一五	吾妻下駄	(中) 二六	扇つなぎ賣	(下) 一五
朝夕太郎	(下) 一七	吾妻コート	(中) 二三	(あぶ) 油市	(上) 一五
朝顔	(下) 一三	吾婿箒	(下) 一六	油屋	(中) 一三
あさり	(中) 二八	赤小豆粥	(中) 二四	(あほ) 阿呆陀羅經讀	(上) 一五
(あし) 足駄	(中) 一四	(あと) あと齒	(中) 一六	(あま) あま犬狛犬	(上) 一八
(あじ) 網代笠	(中) 一四	あと角	(中) 一三	あまだひ	(中) 二八
(あす) 飛鳥山公園	(上) 一八	あと丸	(中) 一三	雨傘	(中) 一四
(あそ) 遊び人	(中) 二九	(あな) 穴守稻荷	(上) 二二	雨合羽	(中) 一四
(あた) 愛宕神社	(中) 二九	穴八幡神社	(上) 二二	醴酒	(中) 一四
愛宕神社神使の神事	(中) 九	穴釣	(下) 二六	(あみ) 緋下げ	(中) 二二
編物	(下) 二六	(あを) 青物市場	(上) 二五	石蹴り	(下) 二五
網船	(中) 二七	青山共葬墓地	(中) 二五	いしなぎ	(中) 二八
(あん) 按摩	(中) 二九	(い)		いしもち	(中) 二八
行燈	(中) 二七	(いか) いか	(中) 二八	(いせ) 伊勢屋	(上) 一〇
あんかう	(中) 二八	いかひ	(中) 二八	伊勢えび	(中) 二八
(あめ) 飴類	(中) 二九	(いが) いが栗頭	(中) 二九	(いそ) 磯節	(下) 一五
飴細工屋	(下) 一五	(いぎ) 英吉利巻き	(中) 二二	伊雑大神宮大祭	(中) 一四
(あや) 操人形	(下) 一五	(いぐ) 生田流	(下) 一六	(いた) いたちこて	(下) 一五
操人形賣	(下) 一五	軍ごい	(下) 一六	板付草履	(中) 一四
綾どり	(下) 一四	(いけ) 生花	(下) 一四	(いち) 市場	(上) 一四
(あゆ) 鮎	(中) 二八	(いけ) 園茶	(下) 二二	市ヶ谷八幡神社	(中) 一四
鮎漁	(下) 一三	(いさ) いさ	(中) 二八	市川團十郎	(下) 一四
(あら) 新井の大師詣	(中) 二七	(いし) 石間	(上) 二七	市川家十八番	(下) 一四
荒木古童(竹翁)	(下) 一三	石の畑様	(上) 二七	市川家新十八番	(下) 一四
(あわ) あわなめ	(中) 二八			市川左團次	(下) 一四

市川右團次	(下)	六	田舎じりこ	(中)	一三	色直し	(下)	七
市川團藏(六世)	(下)	七	(いは)岩蓮華	(下)	二三	色物	(下)	八
市川團藏(七世)	(下)	七	岩井半四郎	(下)	七	(いわ)いわし	(中)	一四
市川門之助	(下)	七	岩崎健造	(下)	一〇	(う)		
市松	(中)	一三	(いひ)いひだこ	(中)	一四			
一人一脚競走	(下)	一三	(いま)今戸八幡神社	(上)	一七	(うか)鶉飼	(下)	一七
一椀飯	(下)	二	今戸焼火入れ	(中)	一七	(うさ)鶉	(下)	一八
(いこ)一週忌	(下)	三	今戸焼土人形	(下)	一五	鶉啼合會	(下)	一八
一中節	(下)	三	今戸人形賣	(下)	一五	(うけ)有氣	(上)	一八
(いじ)和泉要助	(中)	九	(いん)飲食店	(中)	一五	有氣振舞	(上)	一八
和泉流	(下)	五	飲料水	(中)	一五	(うさ)鬼	(下)	一八
(いこ)銀杏返し	(中)	一三	(いも)芋蟲ころく	(下)	一三	鬼く	(下)	一八
(いな)稻荷祭	(上)	一三	(いり)いり豆屋	(中)	一三	(うし)牛込區	(上)	一八
稻荷餅	(上)	一三	入谷の朝顔	(下)	一六	牛込區の神社	(上)	一八
田舎ッペ	(上)	一三	(いろ)色餅	(中)	一五	牛込區の寺院	(上)	一八
牛込區内の縁日	(上)	一四	うば貝	(中)	一四	占ひ(下盤)	(上)	一七
牛天神	(上)	一七	(うぶ)産土神詣	(上)	一五	裏鬼門	(上)	一七
牛車	(中)	一三	産湯	(下)	一〇	裏長屋	(中)	一八
丑紅	(中)	九	産衣	(下)	二	(うり)賣始	(中)	一八
(うそ)覺替の神事	(中)	五	(うへ)上野公園	(上)	一五	賣聲	(上)	一八
(うた)歌澤節	(下)	三	上野の花見	(下)	一五	(うる)うろく船	(上)	一八
哥澤節	(下)	三	上野廣小路	(中)	一五	(うな)魚類	(中)	一八
(うぢ)宇治紫文齋	(下)	三	上野の鐘	(上)	一八	魚釣	(下)	一八
(うで)腕環	(中)	一四	(うん)運送船	(中)	一四	(え)		
(うど)饅餡	(中)	一四	運動會	(下)	一三	(えき)エキセルサイザー(下)	(下)	一八
(うな)鰻	(中)	一四	(うめ)梅若實	(下)	一四	(えて)えてがく町	(上)	一八
鰻の穴釣	(下)	一三	梅見	(下)	一四	(えど)江戸の花	(上)	一八
鶉繩船	(中)	一七	梅ヶ谷藤太郎	(下)	一七	江戸川の櫻	(上)	一八
(うの)卵の花汁	(中)	一五	梅ヶ谷藤太郎(二世)	(下)	一七	江戸ッ兒氣質	(下)	一八
(うば)乳母車	(中)	一三	(うら)盃蘭盆	(中)	一四		(上)	一八

江戸おもちゃ	(下)	一五	圓朝物	(下)	九	(おし)おしこ	(中)	二五
(えび)えび	(中)	一六	園遊會	(下)	二〇	おしよ上げ	(中)	三三
海老茶袴	(中)	二三	(お)			押繪羽子板	(中)	六八
海老茶式部	(下)	三六	(お)王子神社	(中)	九六	お尻の用心	(下)	一四
夷子講	(中)	六〇	(お)おかぶる	(中)	三三	(おじ)お十夜	(中)	六二
(えん)縁日	(上)	一四	おかっぱ	(中)	三三	(おす)お鈴の舞	(上)	三三
縁日商人	(上)	三六	(おき)置屋	(上)	元	(おせ)おせち	(中)	三
縁日の観せ物	(上)	三六	(おく)奥山閣	(下)	九	(おた)お寶く	(中)	六
縁切板	(上)	一五	奥山の観せ物	(下)	九	おたらひ	(中)	二二
縁結び	(上)	一五	(おけ)おけし	(中)	三三	お煙草盆	(中)	二二
縁起	(上)	一五	(おこ)御事始	(中)	六	お太鼓結び	(中)	三三
縁起棚	(上)	一五	お高祖頭巾	(中)	三五	(おち)おちこ齋	(中)	三三
縁談	(下)	一	(おさ)おさらひ	(下)	三七	お茶坊主	(下)	二八
演劇	(下)	一七	お下げ	(中)	三三	(おつ)オッパケヘー節	(下)	七
閻魔	(上)	一七				(おて)お手玉	(下)	二五

(おで)おでこ芝居	(下)	六	(おほ)大観音	(上)	一七	大藏流	(下)	五
(おと)お鳥さま	(中)	一六	大屋	(上)	二六	大森の鬘	(下)	一五
お伽話	(下)	一五	太田神社	(上)	二四	大森の麥稈細工	(下)	一五
音羽屋	(下)	九	大石父子の墓	(上)	一四	狼連	(下)	一五
(おに)鬼ごっこ	(下)	一四	大晦日	(中)	七	(おま)おまへにはれた	(下)	一四
鬼坊主清吉の墓	(上)	一五	大晦日の百八	(上)	元	はうれん草		
(おは)おはさみ	(中)	二三	大祓	(中)	七	(おみ)お宮詣	(下)	二
お初形	(中)	二二	大薩摩	(下)	三三	(おむ)お迎ひ	(上)	一四
(おは)おはこ	(中)	二三	大關	(下)	七	お迎ひ	(中)	一四
(おひ)追ひ羽子	(中)	七四	大谷廣次	(下)	七	(おん)音楽	(下)	三〇
(おひ)帯	(中)	三〇	大向	(下)	六	音楽隊	(下)	四
帯解	(中)	三三	大部屋	(下)	三	音楽演奏會	(下)	四
鎮帯	(下)	九	大入場	(下)	三	音曲吹寄	(下)	六
帯祝	(下)	二〇	大道具	(下)	六	御馬	(下)	一四
帯留	(中)	二三	大久保の躰圖	(下)	一九	(おも)おもちゃ	(下)	五

(おや)お山の大将	(下)	二五	(かう)麴町區	(上)	二二	角袖	(中)	二五
お山お山のおこんさん(下)	(下)	二四	麴町區の神社	(上)	二〇	角兵衛獅子	(上)	二五
親子稿	(中)	二六	麴町區の寺院	(上)	二三	(か)神樂	(上)	二五
(おる)オルガン	(中)	二四	麴町區内の縁日	(上)	二四	神樂堂	(上)	二二
オルゴール	(中)	二四	筭	(中)	二六	神樂坂の毘沙門	(中)	二七
(か)			筭巻き	(中)	二五	(か)額	(上)	二三
(か)開店	(上)	二九	編蝠傘	(中)	二四	學校	(上)	二八
開帳	(上)	二九	(か)家屋	(中)	二七	(か)懸無垢	(中)	二九
改良座	(下)	二九	(か)鏡開	(中)	二四	懸行燈	(中)	二九
改良劍舞	(下)	二九	鏡たて	(中)	二五	懸物	(中)	二九
改正相撲組	(下)	二九	蚊がすり	(中)	二五	(か)蔭祭	(上)	二九
會堂	(上)	二五	(か)垣	(中)	二五	影や唐祿人	(下)	二七
海晏寺の紅葉	(下)	二〇	書始	(中)	二五	(か)駕籠	(中)	二四
(か)外套	(中)	二三	(か)鍵屋	(中)	二四	鹿島汁	(中)	二五
			(か)隠れん坊	(下)	二四	かごめく	(下)	二四

(かさ)笠	(中)	二四	(かた)形代	(中)	二四	活歴風	(下)	二七
猪守稻荷	(上)	二七	肩掛	(中)	二四	(か)香取神社大祭	(中)	二五
かさこ	(中)	二四	肩車	(下)	二五	加藤虎吉	(中)	二四
家作人	(上)	二五	かた紙賣	(下)	二五	河東節	(下)	二五
(かさ)風車	(中)	二三	片岡我童(仁左衛門)	(下)	二七	(か)門附	(上)	二五
風車賣	(下)	二五	片岡我當	(下)	二七	門松	(中)	二五
(かし)菓子	(中)	二六	(か)かぢき	(中)	二四	門松賣	(中)	二五
菓子屋	(中)	二六	(か)松魚	(中)	二四	(か)金杉の毘沙門	(上)	二五
鹿島神社大祭	(中)	二三	鯉稿	(中)	二四	かながしら	(中)	二四
柏餅	(中)	二九	勝山	(中)	二四	(か)鐘	(中)	二八
(か)火事	(上)	二三	かつら下地	(中)	二三	(か)鹿の子模様	(中)	二六
(か)瓦斯燈	(中)	二七	かっぱ	(中)	二三	(か)賀の祝	(中)	二六
(か)火葬	(下)	二六	活動寫真	(下)	二五	(か)川崎大師詣	(中)	二六
(か)華族	(上)	二〇	かっぱれ	(上)	二五	川開	(中)	二四
華族女學校生徒の風	(中)	二三	かっぱらひ	(上)	二五	川施餓鬼	(中)	二四

川船	(中) 一〇四	(かま) 釜	(中) 九	神田見	(上) 八
川蒸氣船	(中) 一〇三	釜鬼	(下) 一〇二	寒	(中) 八
川上音次郎	(下) 七	かます	(中) 一〇一	寒積古	(中) 九
河竹新七	(下) 六	蒲鉾賣	(上) 一〇〇	寒ざらひ	(中) 九
厠	(中) 五	(かみ) 紙屑拾ひ	(上) 九十九	寒垢離	(中) 九
蛙飛び	(下) 四	紙の面賣	(下) 九十八	観音の縁日	(中) 九
(かひ) 貝類	(中) 三	髪置	(中) 九十七	勸工場	(上) 九
貝の口	(中) 二	髪ひき	(下) 九十六	観兵式	(中) 九
(かぶ) 冑人形	(中) 一	神無月のお留守番	(上) 九十五	観世流	(下) 九
冠木門	(中) 〇	上方贅六	(上) 九十四	観世清康	(下) 九
かぶろ	(中) 〇	(かん) 神田區	(上) 九十三	灌佛會	(中) 九
鍋木溪庵	(下) 〇	神田區の神社	(上) 九十二	還曆の祝	(下) 九
鍋木派	(下) 〇	神田區の寺院	(上) 九十一	棺	(下) 九
歌舞伎座	(下) 〇	神田區内の縁日	(上) 九十	かんざし	(中) 九
(かへ) 壁	(中) 〇	神田神社	(中) 八十九	看板	(上) 九
(がん) 眼病を祈る	(上) 一五	(から) 烏森神社	(中) 八十八	(きく) 菊見	(下) 一〇〇
玩具	(下) 一四	唐草模様	(中) 八十七	菊形	(中) 一〇七
願懸け	(上) 一三	傘	(中) 八十六	(きげ) 紀元節	(中) 一〇
(かめ) 龜戸神社	(上) 一二	傘屋	(中) 八十五	(きこ) 氣候	(上) 一〇
龜戸神社の賽替	(中) 一一	(かり) 假屋	(上) 八十四	(きし) 岸澤節	(下) 一〇
龜戸神社の追儺	(中) 一〇	かりん糖賣	(上) 八十三	岸澤式佐	(下) 一〇
龜戸の梅	(下) 九	刈込器械	(中) 八十二	喜昇座	(下) 一〇
龜戸の藤	(下) 八	(かり) 臥龍梅	(下) 八十一	きしご弾き	(下) 一〇
龜戸の張子人形	(中) 七	(かる) かるた取	(中) 八十	きしご採ひ	(下) 一〇
龜戸土産	(中) 六	(かれ) かれひ	(中) 七十九	(きす) すす	(上) 一〇
龜山のお化け	(下) 五	枯野	(下) 七十八	きす釣	(下) 一〇
(かや) 蚊帳	(中) 四	(き) 鬼王菩薩	(上) 七十七	(きた) 北野神社	(中) 一〇
蚊やつり	(下) 三	(きか) 器械船	(中) 七十六	喜多流	(下) 一〇
茅場町の薬師	(中) 二		(上) 七十五	喜多六平太	(下) 一〇
樺寺の地藏	(上) 一		(中) 七十四	(きた) 義太夫節	(下) 一〇

(きん) 喫茶店	(中)	一五	(きん) 木村庄之助	(下)	八	共葬墓地	(下)	二五
喫煙	(中)	一五	木村瀬平	(下)	八	狂言	(下)	二五
龜甲模様	(中)	一三	(きん) 近所聞き	(下)	一	狂言作者	(下)	二五
(きん) 歸天齋正一	(下)	一五	(きん) 九星	(上)	一	清元	(下)	二五
(きん) 衣被ぎの芋	(中)	一五	(きん) 牛肉	(中)	一	清元延壽太夫	(下)	二五
(きん) 杵屋	(下)	三	牛肉店	(中)	一	鏡臺	(中)	二五
杵屋六左衛門	(下)	三	(きん) 京橋區	(上)	二	(きん) 魚類	(中)	二五
喜音翁	(下)	三	京橋區の神社	(上)	三	御忌法會	(上)	二五
(きん) 菌類	(中)	一	京橋區の寺院	(上)	三	(きん) 基督教	(上)	二五
喜の字の祝	(下)	一	京橋區内の縁日	(上)	二	基督教徒の結婚式	(下)	二五
木登り	(下)	一	經師屋	(上)	三	切り髪	(中)	二五
(きん) 際物師	(上)	一	經師屋連	(下)	三	切餅屋	(中)	二五
木原店	(中)	一	經帷子	(下)	七	(きん) 區裁判所	(上)	二五
(きん) 貴夫人形丸髷	(中)	一	教育	(上)	三			
(きん) 鬼門	(上)	一	教師	(上)	三			

草刈藥師	(上)	一五	(きん) 熊野神社	(中)	一	(けい) 警察	(上)	一
草市	(中)	一	熊手	(中)	一	(けい) 警察	(上)	一
草文	(下)	一	(きん) 組上げ繪	(上)	一	慶庵	(上)	一
鏡つなぎ	(中)	一	(きん) 久米平内の祠	(上)	一	慶庵派	(下)	一
(きん) 櫛	(中)	一	久米三	(中)	一	毛絲編み	(下)	一
櫛巻	(中)	一	(きん) 軍人合せ	(下)	一	(けい) 藝人	(中)	一
(きん) 糞船	(中)	一	軍樂	(下)	一	藝妓	(中)	一
(きん) 果物	(中)	一	(きん) 藏前天王	(上)	一	藝子擔	(中)	一
九段の招魂社	(中)	一	倉法師	(上)	一	(けい) 劇場	(下)	一
九段の招魂祭	(中)	一	クラリオネット	(下)	一	(けい) 化粧	(中)	一
(きん) 靴	(中)	一	(きん) 栗飯	(中)	一	化粧師	(下)	一
(きん) くづめき御免	(上)	一	(きん) 車	(中)	一	(けい) 下駄	(中)	一
屑屋	(上)	一	車えび	(中)	一	(けい) 下女	(中)	一
(きん) 喰初	(下)	一	(きん) 黒だひ	(中)	一	(けい) 毛卷島田	(下)	一
食ひつみ	(中)	一						

(ひん) 獻残屋	(上) 元	行商	(上) 四	與入れ	(下) 五
儉約番	(中) 二七	高利貸	(上) 五	(こす) コスメチック	(中) 二〇
見連	(下) 三	弘法忌	(中) 三	(こせ) 五性	(上) 一六
(げん) 元始祭	(中) 六	紅葉	(下) 二	(こた) 火燧	(中) 九
元祿笠	(中) 一四	(こえ) 肥船	(中) 一五	(こた) 小高園	(下) 一四
(こあ) 小網神社	(中) 三三	(こが) 小金井の櫻	(下) 一五	(こた) 五大力船	(中) 一四
(こい) 小石川區	(上) 二二	小金井蘆洲	(下) 九	(こち) 五條天神社	(中) 一〇
小石川區の神社	(上) 二〇	(こが) 五月人形	(中) 六	(こち) 御馳走	(下) 五
小石川區の寺院	(上) 二三	五月人形市	(中) 元	(こち) 五條天神社	(中) 一〇
小石川區内の縁日	(上) 二四	(こき) 古稀の祝	(下) 五	(こつ) 骨上げ	(下) 二六
(こう) 公園	(上) 六	胡弓	(下) 四	骨董	(下) 二八
講社	(上) 三〇	(こく) 小車	(中) 二〇	(こて) 御殿山の櫻	(下) 一八
講談	(下) 九	(こく) 戸口	(上) 一〇	(こと) 金刀比羅神社	(上) 二四
		(こし) 奥(葬式の)	(下) 四	等	(下) 九
				(こと) 子供芝居	(下) 三

子供乞食	(上) 九	狛狗大神の靈札	(上) 二六	(こや) 小屋物	(上) 一三
子供の遊び	(下) 一三	獨樂廻し	(下) 三	(こと) 御用祭	(中) 三
小道具(演劇の)	(下) 四	獨樂賣	(下) 一五	御用納	(中) 七
(こ) 五十稻荷	(上) 一四	駒止石	(上) 一五	(こる) コルネット	(下) 一四
(こな) 御難の牡丹餅	(中) 九	(こみ) こみ隠し	(下) 一四	(ころ) 轉び	(上) 三
(こひ) 鯉	(中) 一〇	(こむ) 小結	(下) 七	(こわ) 聲色遣ひ	(下) 九
鯉釣	(中) 二四	(こん) 婚姻	(下) 一	(こ) (と)	
鯉こく	(中) 二五	金神	(上) 一七	(さ) 祭禮	(上) 三
鯉の漁登り賣	(下) 一五	金剛流	(下) 一五	祭文かたり	(上) 三
(こひ) 五百羅漢	(上) 二七	金春流	(下) 一五	賽日	(上) 三
(こへ) 子辨慶	(中) 三三	蒟蒻	(中) 一五	菜蔬	(中) 一〇
(こほ) 氷賣	(上) 四	蒟蒻園魔	(上) 一五	(さう) さうだがつを	(中) 一〇
氷水屋	(中) 三	(こも) 子持大名	(中) 三三	(さか) 酒屋	(中) 一〇
(こま) 駒形堂	(上) 二	子持格子	(中) 三三	肴屋	(中) 一〇
小町形	(中) 二	(こも) 五月並べ	(下) 一七		

左官 (上) 三六	薩摩琵琶 (下) 四	三輪車 (中) 六
盛場所 (上) 六	甘藷 (中) 三	三助 (上) 三
榊の舞 (上) 二三	(さ)砂糖 (中) 五	三度笠 (中) 三
境川浪右衛門 (下) 七	(さ)茶道 (下) 三	三三九度 (下) 六
(さ)座頭 (下) 六	(さ)ナノナノ節 (下) 二	三名優 (下) 七
(さ)櫻田神社 (上) 二	(さ)差配人 (上) 六	三曲 (下) 四
櫻鍋 (中) 一	澤村田之助 (下) 七	三遊派 (下) 六
櫻狩 (下) 二	(さ)さば (中) 三	三遊亭圓朝 (下) 六
櫻餅 (下) 一	さば稻荷 (上) 七	三遊亭圓生 (下) 六
櫻間伴馬 (下) 一	(さ)三杉曲 (下) 三	三役 (下) 七
(さ)酒 (中) 一	(さ)三社 (上) 二	さんま (中) 一
さげ (中) 一	三社祭 (中) 三	サンダーの陸鈴 (下) 二
(さ)佐々良三八宿 (上) 二	三月の節供 (中) 三	(さ)鞘形模様 (中) 三
(さ)座敷職 (中) 六	三月の引すり紙鷹 (下) 七	(さ)さより (中) 一
(さ)薩摩下駄 (中) 一	三泣き車 (中) 二	(さ)皿廻し (下) 七
(さ)砂利船 (中) 一	(し)四崩し (中) 三	下町 (中) 二
(さ)猿類 (中) 二	(し)紙腔琴 (中) 一	したひらめ (中) 一
さるぼう (中) 一	(し)仕事師 (中) 三	(し)仕出しや (中) 一
(さ)「さる」といふ蘭 なを (上) 一	しごき (中) 三	七の首は「しごき」なれども今俗音「ひ ら」といふに從ひ便宜上「しごき」に區 別す (し)室内射的 (下) 一
(さ)竿釣 (下) 三	(し)獅子狛犬 (上) 一	(し)七寶模様 (中) 一
(し) (上) 三	獅子舞 (中) 七	(し)十軒店の市 (中) 三
(し)寺院 (上) 三	(し)蜆賣 (中) 一	(し)自轉車 (下) 一
(し)芝翫 (中) 三	蜆汁 (中) 一	自轉車競走會 (下) 一
(し)四月諸社の大祭 (中) 七	(し)下谷區 (上) 六	(し)品川天王 (中) 三
(し)慈眼大師忌 (上) 二	下谷區の神社 (上) 三	品川妙國寺の仁王尊 (上) 一
(し)敷島袋 (中) 一	下谷區の寺院 (上) 三	支那料理 (中) 一
式守伊之助 (下) 六	下谷區内の縁日 (上) 四	(し)不忍辨財天堂 (中) 一
四季の遊賞 (下) 六	下谷神社 (中) 三	不忍池の蓮 (下) 一
(し)兒戯 (下) 一	下谷の摩利支天 (上) 一	東雲節 (下) 一

(七) 芝區	(上)	三三	縛られ地蔵	(上)	一五	信仰心	(上)	一〇
芝區の神社	(上)	三〇	(七) しび	(上)	一〇	信玄袋	(中)	一〇
芝區内の寺院	(上)	三三	(七) 鹽屋	(中)	一五	眞宗	(上)	三〇
芝區内の縁日	(上)	一〇	鹽屋紙屋	(下)	一五	親鸞上人忌	(中)	一〇
芝公園	(上)	七	鹽地蔵	(上)	一五	新年宴會	(中)	六
芝大神宮	(中)	一五	湖千狩	(下)	一八	新小金井	(下)	一八
芝の神明	(中)	一五	(七) 島田詣	(中)	三三	新婚旅行	(中)	九
芝山の仁王尊	(上)	三三	島田崩し	(中)	三三	新富座	(下)	六
芝えび	(中)	一〇	四萬六千日	(中)	三三	新高	(下)	六
芝金	(下)	三三	しまあぢ	(中)	一〇	新駒	(下)	三
芝居	(下)	三三	稿柄	(中)	三三	新十八番	(下)	七
芝居見物	(下)	三三	(七) 神佛	(上)	九	新俳優	(下)	七
暫	(下)	三三	神祭	(上)	一〇	新演劇	(下)	七
柴又帝釋天	(中)	一五	神明造	(上)	一〇	新橋	(上)	四
柴又の住吉踊	(下)	一五	神佛の紋章	(上)	一〇			

新橋形丸鬚	(中)	二二	釋迦涅槃會	(中)	二	(七) 十九文店	(上)	一〇
新橋形の下駄	(中)	一五	赤口	(上)	一七	十四日年越	(中)	一〇
新聞賣	(上)	一〇	しやくま	(中)	二二	十五日粥	(中)	一〇
新聞相撲	(下)	一〇	車夫	(中)	二二	十日十夜法要	(中)	一〇
新内飾	(下)	三三	しやも屋	(中)	一五	十八番	(下)	六
新樹	(下)	一五	三絃曲	(下)	三三	十兩取	(下)	七
しんこ細工	(下)	一五	尺八	(下)	四	十六むさし	(下)	七
清樂	(下)	一〇	(七) 蛇の目傘	(中)	一四	十の字がすり	(中)	一〇
シンバル	(下)	一〇	じやんけん	(下)	一四	獸肉	(中)	一〇
(七) 人口	(上)	三〇	(七) 宗教	(上)	九	銃獵	(下)	二九
神社	(上)	三三	春季皇靈祭	(中)	二四	壽賀	(下)	五
人力車	(中)	一〇	春風亭柳枝	(下)	九	(七) 商人	(上)	三
(七) 注連繩	(中)	一〇	修正會	(中)	一〇	商業	(上)	三
七五三の祝	(中)	一〇	出産	(下)	九	商家	(中)	七
(七) 釋迦誕生會	(中)	一〇	秋色櫻	(下)	一三	小學校	(上)	七

小劇場	(下)	五	松旭齋天一	(下)	三	淨瑠璃	(下)	三
正殿	(上)	一〇八	蓋藤	(下)	一四	淨瑠璃臺	(下)	三
招魂祭	(中)	三三	將基	(下)	二七	成就日	(上)	一七
精靈祭	(中)	四	障碍物競走	(下)	一三	序の口	(下)	七
精進揚	(中)	一五	シヨール	(中)	二四	序の二段	(下)	七
精進落	(下)	元	書生	(中)	二九	(しり)尻とり歌	(下)	一七
少年音楽隊	(下)	四	書生の金米糖	(中)	二五	(しろ)しろこぼし	(中)	一〇六
少年芝居	(下)	七	書生芝居	(下)	三	シルク、ハット	(中)	一〇六
生簀市	(中)	三	書畫骨董	(下)	一〇	汁粉屋	(中)	一〇三
消防夫	(上)	五	書畫骨董展覽會	(下)	一〇	(しろ)白酒	(中)	一〇三
消防組出初式	(上)	二	食傷通	(中)	二五	素人義太夫	(下)	三
菖蒲見	(下)	一四	初七日	(下)	元	素人能	(下)	四
菖蒲節供	(中)	六	職工	(上)	三	(す)		
菖蒲酒	(中)	元	職人藝	(下)	二六	(すい)水天宮	(上)二天、一四、一四、一五、(中)六三	
菖蒲湯	(中)	元	(じよ)上棟式	(中)	八			
水防組出初式	(中)	元	(すし)鮓屋	(中)	二五	相撲番附	(下)	五
水道	(中)	五	(すす)すすき	(中)	二〇	相撲の取組	(下)	八
水兵帽	(中)	二五	(すず)鈴木徳次郎	(中)	九	(すみ)住吉神社	(中)	一〇
水族館	(下)	一〇	涼み燈籠	(下)	二四	住吉踊	(上)	五
(すい)すいすいすころばし	(下)	一四	(すそ)裾廻し	(中)	二七	住吉踊	(中)	一〇
(すう)素諾	(下)	四	(すた)簾屋	(上)	七	炭	(中)	九
(すか)須賀神社	(中)	三三	(すて)棄兒	(上)	二〇	墨轉し	(下)	一四
(すが)菅野序遊	(下)	三	拾鐘	(上)	二九	隅田川の花見	(下)	一八
(すぎ)杉森神社	(中)	二五	(すと)ストライキ節	(下)	一五	隅田川焼	(下)	一八
(すけ)助高屋高助	(下)	七	(すは)諏訪神社	(中)	四	(すり)すり半	(上)	一六
(すげ)菅笠	(中)	一四	(すひ)吸口	(中)	四	(する)するめいか	(中)	一〇
(すこ)雙六	(中)	二五、二七	(すま)須磨琴	(下)	四	(すわ)すわり	(上)	一五
(すさ)洲崎神社	(上)	三七	相撲	(下)	四	(せ)		
洲崎辨天	(上)	三七	相撲取	(中)	三	(せい)政治始	(中)	六
			角艇協會	(下)	四			

西洋造	(中)	二六	(せつ)節分	(中)	二六	(そ)	(上)	二七
西洋門	(中)	二七	雪踏	(中)	二七	(そ)相生相尅	(上)	二七
西洋料理	(中)	二八	(せじ)銭山金山	(下)	二八	掃除屋	(上)	二八
西洋一品料理	(中)	二九	銭占	(上)	二九	僧侶	(中)	二九
西洋楽器	(下)	三〇	(せん)千手観音	(上)	三〇	惣菜	(中)	三〇
西洋手品	(下)	三一	千手観音	(下)	三一	總高架	(中)	三一
西洋鬼ごっこ	(下)	三二	千箇寺詣	(上)	三二	葬儀	(中)	三二
せいご	(中)	三三	千社詣	(上)	三三	葬儀社	(下)	三三
(せが)施餓鬼	(中)	三四	千日詣	(中)	三四	箏曲	(下)	三四
(せき)關取格	(下)	三五	先負	(上)	三五	插花	(下)	三五
關脇	(下)	三六	先勝	(上)	三六	壯士芝居	(下)	三六
關三十郎	(下)	三七	煎餅	(中)	三七	壯士歌	(下)	三七
赤口	(上)	三八	(せん)膳	(中)	三八	索麵にうめん	(下)	三八
赤飯	(中)	三九	(せり)せり上げ	(下)	三九	そうだがつを	(中)	三九
石斛	(下)	四〇						
(ぞう)増上寺	(上)	四一	(たひ)太宗寺の閻魔	(中)	四一	大安日	(上)	四一
増上寺開山忌	(上)	四二	大砲萬右衛門	(下)	四二	大劇場	(下)	四二
増上寺の鐘	(上)	四三	大祭	(上)	四三	大名稿	(中)	四三
雜司谷の木茂	(下)	四四	大弓場	(下)	四四	臺所	(中)	四四
雜煮餅	(中)	四五	胎内潛	(中)	四五	臺所道具	(中)	四五
雜味汁	(中)	四六	たいらぎ	(中)	四六	蘿蔔	(中)	四六
草履下駄	(中)	四七	(たひ)大佛	(上)	四七	(たか)高瀬船	(中)	四七
草履さんじよ	(下)	四八	大圓寺の地藏	(上)	四八	高髷	(中)	四八
(そく)束髪	(中)	四九	大施餓鬼	(上)	四九	高山幸助	(中)	四九
(その)團八節	(下)	五〇	大般若轉讀	(上)	五〇	高土間	(下)	五〇
(そば)蕎麥麵	(中)	五一	大神樂	(中)	五一	高島屋	(下)	五一
蕎麥屋	(中)	五二	大工	(上)	五二	高砂浦五郎	(下)	五二
蕎麥屋の擔夫	(中)	五三	大黒帽子	(中)	五三	寶船	(上)	五三
			大黒傘	(中)	五四	寶船賣	(上)	五四
			大福餅	(中)	五五	寶山左衛門	(下)	五五

東京風俗志索引 (そ、た)

二十三

(たき)薪	(中)	九	だしれ詞	(下)	一七	(たば)煙草	(中)	一五
瀧	(下)	一七	(たた)壘	(中)	一七	煙草盆	(中)	一五
瀧の川の紅葉	(下)	二〇	壘算	(上)	一七	煙草入	(中)	一七
瀧編	(中)	二一	たたき釣	(下)	二六	(たひ)たひ	(下)	二六
(たく)托鉢僧	(上)	二二	(たち)立見場	(下)	三三	(たひ)旅所	(上)	二三
澤庵おし	(下)	二二	たちのうを	(中)	二六	足袋	(中)	二六
(たけ)筍	(中)	二四	立ちこみ	(下)	二六	(たぶ)たぶがひ	(中)	二六
筍飯	(中)	二四	他町地主	(上)	二五	田舟	(中)	二七
竹原五郎吉	(中)	二〇	(たつ)龍口勘工場	(上)	二五	(たま)球乗	(下)	二七
竹馬	(下)	二二	(たて)立行司	(下)	二六	球突き	(下)	二七
竹がへし	(下)	二二	堅やの字	(中)	二二	球ころがし	(下)	二九
(たこ)たこ	(中)	二一	堅わく	(中)	二二	玉姫稻荷	(中)	二九
紙鳶上げ	(中)	二二	(たな)七夕	(中)	二四	玉屋	(中)	二九
(たし)山車	(中)	二二	棚經	(中)	二四	(たん)誕生の祝	(下)	二九
山車高度賣	(下)	二五	店子	(上)	二五	たんかざる	(上)	二九

簞笥	(中)	二五	(ち)			貸餅屋	(中)	二五
(たん)團子天王	(中)	二五	(ちい)ちいさんばあさん毛唐人	(下)	二五	鎮西八郎爲朝御宿	(上)	二五
團子阪の菊	(下)	二〇	(ちぎ)千木箱	(中)	二五	ちんちんもぐら	(下)	二五
團子阪の綿細工	(下)	二五	(ちぐ)地口行燈	(中)	二五	ちんわん猫節	(下)	二五
團十郎	(上)	二五	(ちこ)兒鬚	(中)	二五	(ちや)茶船	(中)	二五
旦那藝	(下)	二五	(ちぢ)縮繪	(下)	二五	茶碗	(中)	二五
(たら)たら	(中)	二五	(ちぢ)地鎮祭	(中)	二五	茶の間	(中)	二五
(たら)たらだら市	(中)	二五	(ちぢ)千歳飴	(下)	二五	茶釜齧	(中)	二五
(たる)樽天王	(上)	二五	(ちの)茅の輪漕	(中)	二五	茶の湯	(下)	二五
樽神輿	(上)	二五	(ちぬ)地主	(上)	二五	ちやんちやん	(中)	二五
(たる)達摩忌	(中)	二五	(ちの)地走	(上)	二五	(ちゆ)中秋	(中)	二五
達摩船	(中)	二五	(ちの)地曳	(中)	二五	中元	(中)	二五
達摩返し	(中)	二五	(ちん)貸錢	(上)	二五	中高	(下)	二五
(たる)太郎稻荷	(上)	二五				(ちよ)千代田袋	(中)	二五
						猪牙船	(中)	二五

町家住居	(中)	共三	月形	(中)	一七	釣道具	(下)	二五
ちよば	(下)	三	(つ)築土八幡神社	(中)	一七	釣堀	(下)	二七
長春園	(下)	一四	(つけ)附出し	(下)	六	(つる)鶴賀鴻賀齋	(下)	二七
提燈	(中)	七	漬菜	(中)	一四	(て)		
挑燈(玩具)賣	(下)	一五	つけ盤	(中)	三三	(てい)庭園	(中)	六
挑燈祭	(上)	三三	(つじ)辻藝人	(上)	五	(てい)庭園	(中)	六
挑燈競走	(下)	二三	(つた)津田旭庵	(下)	四	(てい)庭園	(上)	六
蝶蝶齋	(中)	三三	(つち)土船	(中)	二五	帝國大學運動會	(下)	二三
蝶蝶齋	(下)	一五	(つ)脚闕	(下)	二九	帝國大學競漕會	(下)	二四
(ちよ)定齋	(上)	四	(つ)角大師	(上)	二六	(てう)手斧始	(中)	九
(つ)追薦	(中)	六	(つ)妻戀稻荷神社	(上)	二六	(てか)出開帳	(上)	一五
(つき)月詣	(上)	一五	つま切	(中)	三三	出替	(上)	六
月見	(中)	一六	(つ)摘草	(下)	一九	(てこ)手古舞	(上)	三三
	(下)	一五	積物	(上)	一五	(てじ)手品	(下)	一五
	(中)	一六	(つり)釣魚	(下)	三三	(てつ)鐵砲洲稻荷神社	(上)	一五
鐵道馬車	(中)	二八	天理教會	(上)	二二	東京の氣候	(上)	二
鐵道唱歌	(下)	一五	天覽相撲	(下)	全	東京の地勢	(上)	二
(てな)テナー	(下)	一五	傳馬船	(中)	二四	東京の戸口	(上)	一〇
(てん)手風琴	(下)	一五	てんてんてつとん	(下)	一四	東京の土地	(中)	一〇
(てま)手鞠つき	(中)	三三	(てん)傳通院開山忌	(上)	二四	東京府廳	(上)	一八
手鞠歌	(下)	一六	傳通院の大黒天	(上)	二四	東京の市政	(上)	一八
(てん)天下祭	(中)	七	傳法肌	(中)	二九	東京の警察	(上)	九
天王祭	(中)	一四	電燈	(中)	七	東京商人	(上)	三
天王寺の塔	(上)	一八	電信釣	(下)	三三	東京勸工場	(上)	三
天長節	(中)	三	(てら)寺	(上)	二三	東京座	(下)	五
天麩羅	(中)	一四	寺田左門治	(下)	四	東京博善會社	(下)	六
天井	(中)	一五	(てな)手踊	(下)	五	東京大角紙協會	(下)	六
天神祭	(中)	三	(と)			東照宮	(中)	三
天神齋	(中)	三三	(とう)東京の地位	(上)	一	唐人齋	(中)	三
天狗連	(下)	三				冬至	(中)	三

頭の辛	(中)	三	常磐津小文字太夫	(下)	三	(どひ)土俵入	(下)	六			
豆腐	(中)	二五	(どき)伽僧	(下)	九	(どま)土間	(中)	三			
豆腐屋	(中)	一五	(どく)木賊がすり	(中)	三三	(どみ)富岡八幡神社	(中)	三			
豆腐料理	(中)	一五	(どこ)床屋	(中)	三三	富本	(下)	三			
燈籠	(中)	七	(とし)歳の市	(中)	七	富本豊志大夫	(下)	三			
鬮鶏會	(下)	三	年玉配り	(中)	五	富田溪連	(下)	三			
塔	(上)	一六	歳徳神	(上)	一七	(どむ)吊ひ	(下)	三			
盗難除	(上)	二六、 二七、 二八、 二九、 三〇、 三一、 三二、 三三、 三四、 三五、 三六、 三七、 三八、 三九、 四〇、 四一、 四二、 四三、 四四、 四五、 四六、 四七、 四八、 四九、 五〇、 五一、 五二、 五三、 五四、 五五、 五六、 五七、 五八、 五九、 六〇、 六一、 六二、 六三、 六四、 六五、 六六、 六七、 六八、 六九、 七〇、 七一、 七二、 七三、 七四、 七五、 七六、 七七、 七八、 七九、 八〇、 八一、 八二、 八三、 八四、 八五、 八六、 八七、 八八、 八九、 九〇、 九一、 九二、 九三、 九四、 九五、 九六、 九七、 九八、 九九、 一〇〇、	年増丸詣	(中)	二五	(どん)豚肉	(中)	一六	(とん)豚肉	(中)	一六
(どろ)道德	(上)	七	年寄(相撲の)	(下)	七	とんび	(中)	三			
朋衣	(中)	三元	(どそ)屠蘇散	(中)	三	飛んだり駒たり	(下)	三			
堂島	(中)	二六	(どぞ)土藏	(中)	六	(どん)緞帳芝居	(下)	五			
ドースル連	(下)	五	土藏造	(中)	二二	(とも)友引日	(上)	二七			
どうどうめぐり	(下)	一五	(どぢ)どぢよう	(中)	一五	(とよ)豊川稻荷	(上)	二七			
(どき)時刻の鐘	(上)	二八	どぢよう鍋	(中)	一五	(とよ)土用	(中)	一五			
常磐津節	(下)	三	(どび)とびうを	(中)	一五	土用丑	(中)	一五			
(とら)虎の門金比羅	(中)	二六、 二七、 二八、 二九、 三〇、 三一、 三二、 三三、 三四、 三五、 三六、 三七、 三八、 三九、 四〇、 四一、 四二、 四三、 四四、 四五、 四六、 四七、 四八、 四九、 五〇、 五一、 五二、 五三、 五四、 五五、 五六、 五七、 五八、 五九、 六〇、 六一、 六二、 六三、 六四、 六五、 六六、 六七、 六八、 六九、 七〇、 七一、 七二、 七三、 七四、 七五、 七六、 七七、 七八、 七九、 八〇、 八一、 八二、 八三、 八四、 八五、 八六、 八七、 八八、 八九、 九〇、 九一、 九二、 九三、 九四、 九五、 九六、 九七、 九八、 九九、 一〇〇、	(な)内陣	(上)	一〇七	長屋門	(中)	七	長屋門	(中)	七
寅右衛門	(下)	二三	内國商品陳列館	(上)	三	長襦袢	(中)	二八			
(とり)鷲神社	(中)	二五	内開き	(下)	一	流れ瀧頂	(下)	四			
酉の侍	(中)	三	(なか)仲店	(上)	八	(なげ)投げ島田	(中)	三			
酉の市	(中)	三	中村座	(下)	六	(なご)夏越の大祓	(中)	七			
鳥居	(上)	二	中村芝翫	(下)	九	夏越の神事	(中)	三			
鳥居酒	(中)	二	中村福助	(下)	七	(なす)茄子の皮	(下)	一			
鳥打帽子	(中)	二	中村仲藏	(下)	七	(なだ)なだれ帝釋	(上)	一			
鳥追ひ	(中)	二	中橋天王	(中)	三	名題役者	(下)	六			
鳥料理	(中)	二	中ざし	(中)	二	(なつ)夏帽子	(中)	二			
鳥の飼養	(下)	二	中入り	(下)	八	納豆賣	(中)	二			
とり貝	(中)	一	中川龜三郎	(下)	二	(なで)撫物	(上)	二			
(とろ)トロンボン	(下)	一	(なが)流し	(上)	五	(なな)七ツ坊主	(上)	二			
(な)			ながし	(中)	三	七不思議	(上)	二			
			流し釣	(下)	三	七色唐からし賣	(中)	二			

七種	(中)	四	(なら) 奈落	(下)	三	錦繪	(下)	一五
七草見	(中)	二	(なり) 成田屋	(下)	六	(にじ) 二十六夜待	(中)	五
(なに) 浪花節	(下)	一六	成田屋格子	(中)	三三	(にた) 荷足船	(中)	一四
(なは) 細暖簾	(中)	三三	成駒屋	(下)	六	(にち) 日蓮宗	(上)	三三
繩飛び	(下)	二二	(に)			日蓮上人忌	(中)	一四
(なへ) 苗賣	(上)	三三	(にあ) 二上り新内	(下)	三	日蓮上人御難會	(中)	一四
(なへ) 鍋	(中)	九	(にか) 二階床	(中)	三〇	日蓮日線鑑	(上)	一七
鍋焼うどん	(上)	三	(にが) 似顔繪	(中)	一四	(にち) 二重廻し	(中)	一三
(なぼ) ナボレオン帽子	(中)	三三	(にく) 二崩し	(中)	三三	(につ) 日本胞衣會社	(下)	二
(なま) 鮎	(中)	一〇	(にぐ) 荷車	(中)	一〇	日參	(上)	一五
鮎釣	(下)	二五	(にこ) ニコライ會堂	(上)	一五	日光の走り大黒天	(上)	一五
なまこ	(中)	一〇	(にし) 西久保八幡神社	(上)	三三	日光下駄	(中)	三三
(なみ) 浪形小紋	(中)	三三	西川巳之助	(下)	五	ニッケル、オポー	(中)	一〇
(なん) 南京鼠	(下)	二六	西海嘉次郎	(下)	九	(にに) 二人三脚競走	(下)	一三
(にば) 二番小町	(中)	二九	(ねが) 根掛	(中)	一八	(にの) 二の字がすり	(中)	三三
(にぼ) 日本橋區	(上)	三三	(ねぎ) 葱	(下)	一〇	農業	(上)	六
日本橋區の神社	(上)	三〇	(ねぞ) 鼠取樂賣	(中)	一〇	農民	(上)	三
日本橋區の寺院	(上)	三三	鼠小僧の墓	(上)	一五	稷久會	(下)	一三
日本橋區内の緣日	(上)	一五	鼠木戸	(下)	六	納涼	(中)	一四
(にま) 煮豆賣	(中)	三三	(ねつ) 根っ木	(下)	三三	(のき) 軒花	(上)	三三
(にん) 人情話	(下)	三三	(ねづ) 根津神社	(中)	一三	(のち) 後の藪入	(中)	一四
にんじん牛旁	(下)	一五	(ねは) 涅槃會	(中)	三三	(のつ) のっぺい汁	(中)	一五
(ぬ)			(ねん) 年賀	(中)	四	(のぼ) 轆賣	(下)	一五
(ぬま) ぬまえび	(中)	一〇	(ねり) 遼り物	(上)	三三	(のむ) 野村與作	(中)	一五
(ぬり) 塗下駄	(中)	一四	練馬大根	(中)	一〇	(のれ) 暖簾師	(上)	三三
(ぬれ) 濡れ佛	(上)	二六	(の)			(は) 拜殿	(上)	一七
(ね)			(のう) 能樂	(下)	一〇	俳優	(下)	六
			能樂堂	(下)	一〇	(はい) バイオリン	(下)	一〇

媒灼人	(下) 二	(はこ) 函庭	(下) 三	(はせ) はせ	(中) 二四
(はい) バイブ	(中) 一六	はこせこ	(中) 一四	はせ釣	(中) 二五
(はう) 端唄	(下) 三	箱棟造	(上) 二四	(はた) はた	(中) 二六
(はお) 羽織	(中) 二五	箱馬車	(中) 二〇	旗取競走	(下) 二二
(はか) 墓	(下) 三六	(はこ) 箒	(下) 二九	(はち) 八幡神社大祭	(中) 二五
袴着の祝	(中) 三	羽子板	(中) 六	(はつ) 初卯	(中) 二六
(はか) 馬鹿踊	(上) 二五	(はし) 梯子張板賣	(上) 六	初荷	(中) 二八
馬鹿囃子	(上) 二五	梯子乗	(中) 二	初詣	(中) 二八
ばかがひ	(中) 一〇	走り大黒の御符	(上) 二	初夢	(中) 二六
(はぎ) 萩	(下) 一九	橋渡し	(下) 一	初巳	(中) 二七
萩寺	(下) 一九	(はし) 馬車	(中) 一〇	初日の出	(中) 二
(はく) 白山神社	(上) 二五	(はす) 蓮葉飯	(中) 二〇	初寅	(中) 二七
博善會社	(下) 二六	蓮花	(下) 一	初節供	(中) 二七
(はけ) 刷毛目	(中) 二六	(はす) 場末	(上) 三	初正月	(中) 二六
(はけ) 化物屋敷	(上) 一七	(はせ) 長谷川の大道具(下)	(下) 四	二十日正月	(中) 二五
(はな) 花賣	(上) 二五	羽根つき歌	(下) 二	番傘	(中) 二六
花山車	(上) 二九	(はの) パノラマ	(下) 九	(はん) パン賣	(上) 二六
花火	(中) 二〇	(はば) はばかり	(中) 九	(はや) 流行歌	(下) 二五
花火師	(中) 二〇	(はひ) 灰よせ	(下) 二	早船	(中) 二五
花火賣	(下) 二五	(はま) 蛤鍋屋	(中) 一	囃子臺	(上) 二四
花簪	(中) 二六	破魔弓	(中) 六	囃子部屋	(下) 二四
花笠花簪賣	(下) 二五	(はん) 半纏	(上) 二	(はら) 被褌	(上) 二六
花菖蒲	(下) 二六	半襟	(中) 二	腹合帯	(中) 二三
花見	(下) 二六	半京形	(中) 二	(はり) 張板賣	(上) 二二
花屋敷	(下) 二六	半纏	(中) 二	張出し大關	(下) 二九
花相撲	(下) 二六	半四郎	(中) 二	張子人形賣	(下) 二九
花柳壽輔	(下) 二六	半身面早替	(下) 二	ハリスト復活聖堂	(上) 二五
(ばな) パナマ帽	(中) 二五	ハンド、オルガン	(下) 二	(はり) パリガン	(中) 二九
(はね) 羽田の穴守稻荷(上)	(上) 二〇	(はん) 坂東秀蘭	(下) 七	(はる) 春狂言	(下) 二五
羽根つき	(中) 二五	坂東彦三郎	(下) 七		

(ひ)	(ひい) ビーヤ、ホール (中) 一六二	(ひし) 避暑 (中) 四	(ひな) 雛祭 (中) 三
(ひえ) 日枝神社 (上) 一〇八、一三三、一五二 (中) 一五二、一五三	美術展覧會 (下) 二〇	(ひじ) 美人傘 (中) 一四	雛市 (中) 三
稗詩 (下) 二五	(ひだ) 常陸山谷右衛門 (下) 七	(ひの) 火ノ番 (上) 三	火ノ見 (中) 一四、一五
稗詩賣 (上) 一五	(ひち) (しち) 七福神詣 (中) 二	檜舞臺 (下) 七	日下開山 (下) 七
(ひか) 氷川神社 (上) 一〇三、一三三、一五二	七七夜 (下) 六	(ひば) 火鉢 (中) 九	(ひばり) (下) 二九
(ひが) 彼岸 (中) 七〇	七夜の祝 (下) 三	ひばり (下) 二九	(ひは) 琵琶曲 (下) 四
日傘 (中) 一四	七五三 (中) 一三	(ひび) 日比谷稻荷 (上) 一四、一五、一六	(ひび) 日比谷稻荷 (上) 一四、一五、一六
(ひき) 引上會 (中) 九	(ひつ) 引かけ (中) 一三	日比谷大神宮 (上) 一六	引摺餅 (中) 九
引摺餅 (中) 九	引越車 (中) 一〇	(ひぶ) 火防せの神 (上) 一〇	彈始 (中) 五
彈始 (中) 五	引越女房 (下) 九	(ひん) 貧民窟 (上) 一〇	(ひこ) 耕鯉 (下) 三
(ひさ) 久松留守 (上) 一六	引越の禮物 (中) 一五	貧民學校 (上) 八	久松座 (下) 六
久松座 (下) 六	(ひと) 一幕見 (下) 三	(ひん) 貧乏神 (上) 一〇	
	一棟長屋 (中) 八		
	(ひろ) 廣目屋 (上) 四	深川區の寺院 (上) 三	
貧乏神 (中) 六	(ひわ) 火渡りの祈禱 (中) 一	深川區内の縁日 (上) 一四	
拍板の神事 (中) 一三	(ふ)	深川八幡宮 (中) 一三	
(ひも) 火元争ひ (上) 七	(ふわ) ファンシー・ホール (下) 二	ふかしいも (中) 一四	
(ひや) 百度を踏む (上) 一四	(ふい) 糶祭 (中) 六	(ふき) 吹出し面賣 (下) 一五	
百日咳 (上) 一五	(ふう) 風琴 (下) 四	吹矢 (下) 一九	
百物語 (下) 一七	(ふう) 風鈴賣 (上) 一	(ふく) 福神漬 (中) 一五	
百箇日 (下) 一〇	(ふう) 風船毬つき (下) 一	福地櫻痴 (下) 六	
百花園 (下) 一六	風船賣 (上) 一	福笑ひ (下) 一八	
百萬遍念佛 (下) 三	風船毬つき (下) 一	ふくら雀 (中) 一三	
(ひや) ビヤノ (下) 一四	風船毬賣 (下) 一	(ふけ) 譜見臺 (下) 一五	
(ひよ) 兵庫藩 (中) 二二	風船賣 (下) 一	(ふじ) 富士祭 (中) 一六	
(ひら) 平河天神社 (中) 一三	風蘭 (下) 三	富士松淨瑠璃 (下) 一三	
平土間 (下) 三	(ふか) 深川區 (上) 二	富士松魯中 (下) 一三	
ひらめ (下) 一	深川區の神社 (上) 三	不成就日 (上) 一七	
(ひる) 晝席 (下) 八			

(ふた) 豚肉	(中)	一四	(ふか) 部賀船	(中)	一四
(ふぢ) 藤	(下)	一五	部賀傳馬	(中)	一四
藤間勘右衛門	(下)	一五	(へこ) 兵兒帯	(中)	一三
(ふつ) 富貴豆賣	(中)	一五	(へつ) 籠	(中)	一三
(ぶつ) 佛教の宗派	(上)	一六	(へつ) 別荘	(中)	一六
佛閣	(上)	一三	べつたら市	(中)	一六
佛會	(上)	一三	(へに) 紅勘	(上)	一五
佛滅日	(上)	一七	(への) へのへのもへ	(上)	一六
物産菓子	(上)	一四	(へや) 部屋道具	(中)	一五
物價	(上)	一七			
(ふと) 蒲團	(中)	一六			
(ぶと) 舞踏會	(中)	一三			
(ふな) 船宿	(中)	一六			
船釣	(下)	一三	實生九郎	(下)	一四
針	(中)	一四	實生流	(下)	一四

寶生金五郎	(下)	一四	牡丹形	(中)	一七
報恩講	(中)	一五	(ぼち) 墓地	(下)	一五
炮烙地蔵	(上)	一七	墓地問題	(下)	一六
庖刀	(中)	一六	(ぼつ) ほくかけ	(中)	一五
魴鱈	(中)	一三	(ぼつ) ほくり	(中)	一五
ホーカイ節	(下)	一四	(ぼと) 佛の像	(上)	一七
(ほう) 棒槌	(中)	一三	(ほほ) 酸漿賣	(下)	一四
ポート、レース	(下)	一四	(ほん) 本郷區	(上)	一三
(ほか) ほかん釣	(下)	一三	本郷區の神社	(上)	一三
(ぼく) ト筈	(上)	一七	本郷區の寺院	(上)	一三
(ほこ) 鉢山車	(上)	一三	本郷區内の縁日	(上)	一四
秀倉	(上)	一三	本郷の薬師	(上)	一四
(ほた) 盆狩	(下)	一五	本所區	(上)	一三
(ぼた) ぼたはじき	(上)	一五	本所區の神社	(上)	一三
牡丹	(下)	一三	本所區の寺院	(上)	一三

(ま) マウス、ハーモニカ (下) 一四	(まじ) 禁厭 (上) 一五	(まは) 廻り燈籠 (下) 一五	(まて) まて (中) 一六
(まが) マガレット (中) 一四	(まさ) 政子形 (中) 一七	(まは) まはれく (下) 一六	(まひ) 舞殿 (上) 一七
(まさ) 薪 (中) 九	(まち) 町家住居 (中) 一七	まはりくの小佛 (下) 一四	(ま) 前靴 (中) 一七
巻付 (中) 一三	(まつ) 祭月 (中) 一七	前頭 (下) 一七	(ま) 飯ごと (下) 一七
巻煙草 (中) 一四	待乳山聖天堂 (上) 一六	(ま) 萬歳 (中) 一四	(まん) 萬歳 (中) 一四
巻煙草入 (中) 一四	松の内 (中) 一七	萬年町 (上) 一五	(ま) 萬年形 (中) 一五
(まく) 幕の内 (下) 一七	松荳飯 (中) 一七	萬年形 (中) 一五	幕下 (下) 一七
枕 (中) 一七	松葉返し (中) 一七	萬筋 (中) 一六	枕 (中) 一七
枕直し (下) 一七	松葉形 (中) 一七	萬度 (上) 一六	枕直し (下) 一七
枕團子 (下) 一七	松林伯圓 (下) 一八	饅頭 (中) 一六	枕團子 (下) 一七
まくり (下) 一七	松林東玉 (下) 一八	饅頭笠 (中) 一六	まくり (下) 一七
マンドリン (下) 一四	松永和楓 (下) 一八	身延詣 (上) 一五	マンドリン (下) 一四
(まゆ) 豆 (中) 一四	神輿洗 (中) 一四	(みほ) 三保袋 (中) 一四	(まゆ) 豆 (中) 一四
豆腐 (中) 一四	(みこ) みこ笠 (中) 一四	(みま) 三升格子 (中) 一五	豆腐 (中) 一四
(まゆ) 蘭玉 (中) 一七	(みさ) 三崎稻荷神社 (中) 一七	(みめ) 三圍稻荷神社 (中) 一七	(まゆ) 蘭玉 (中) 一七
眉墨 (中) 一七	(みし) 三島神社大祭 (中) 一七	(みや) 都形 (中) 一七	眉墨 (中) 一七
毬投げ (下) 一七	(みせ) 観せ物 (下) 一八	都一仲 (下) 一七	毬投げ (下) 一七
九番 (中) 一七	(みそ) 味噌 (中) 一七	宮蘭清八 (下) 一七	九番 (中) 一七
九帯 (中) 一七	(みた) 三田八幡神社 (上) 一五	宮蘭千之 (下) 一七	九帯 (中) 一七
(み) 御影供 (上) 一四	(みち) 道行 (中) 一七	宮地芝居 (下) 一六	(み) 御影供 (上) 一四
(みか) 三河屋 (下) 一四	(みち) 微塵稿 (中) 一七	脈釣 (下) 一七	(みか) 三河屋 (下) 一四
(みき) 神酒所 (上) 一三	(みつ) 三つ輪 (中) 一七	(みよ) 妙國寺の仁王 (上) 一五	(みき) 神酒所 (上) 一三
(みく) 御園 (上) 一三	水船 (中) 一五	妙法寺 (中) 一六	(みく) 御園 (上) 一三
(みこ) 神輿 (中) 一三	水菓子屋 (上) 一五	妙法寺 (中) 一六	(みこ) 神輿 (中) 一三
	水まき車 (中) 一五	(みる) みるかひ (中) 一六	
	(みの) 簀 (中) 一四		

(む)	(むい)六日年越	(中)	六	(むす)娘島田	(中)	二三	(めく)めくされ市	(中)	五
	(むか)迎ひ團子	(中)	四	娘義太夫	(下)	五	(めぐ)目黒不動の瀧	(下)	一九
	迎ひ火	(中)	四	(むな)棟礎の式	(中)	六	目黒の筭	(中)	四七
	蟻蚣の小判	(中)	七	(むね)棟上げ	(中)	六	目黒の栗飯	(中)	四七
	向島の花見	(下)	一五	(むろ)ひろあぢ	(中)	一〇	目黒の牡丹	(下)	一九
	向ふのおばさん	(下)	一五	(め)			飯櫃	(中)	九
	(むぎ)麥稈帽子	(中)	三	(めい)迷信	(上)	一五	(めじ)目白	(下)	三〇
	麥稈細工の蛇	(中)	九	銘酒店	(中)	一〇	目白の鐘	(上)	二六
	麥稈細工の玩具	(下)	一五	明月	(中)	五	(めつ)めつから生薑	(中)	五
	麥稈細工賣	(下)	一五	明治座	(下)	六	(めな)めなだ	(中)	一〇
	(むけ)無氣	(上)	一五	名爲暗合會	(下)	三	(めの)めの字の繪馬	(上)	一五
	(むこ)婿	嫁入を見よ		(めう)夫婦齋	(下)	三	(めん)面被り	(下)	二七
	(むし)蟲賣	(下)	三				面も打	(下)	二六
(も)									
(もち)精進	(下)	二九	桃割れ	(中)	三三	厄拂ひ	(中)	三三	
精卒	(下)	一七	桃川如燕	(下)	一八	厄病除	(中)	三三	
餅搗	(中)	七	(もよ)模様精柄	(中)	一〇	(やぐ)八雲神社	(上)	二六	
餅搗芝居	(下)	五	(もり)實ひ湯	(中)	四	八雲琴	(下)	四	
(もち)もぢり	(下)	一三	(もり)森田座	(下)	六	櫓太鼓	(下)	七	
(もの)物賣ひ	(上)	五	森田廉士	(下)	四	夜具	(中)	六	
(もみ)紅葉(鹿肉)	(中)	一	(もる)モルモット	(下)	三	(やげ)薬研堀不動	(上)	一〇	
紅葉	(下)	二	(や)			(やし)夜叉神	(上)	一七	
紅葉小紋	(中)	三	(やか)屋形船	(中)	一〇	野師	(上)	九	
(もん)門	(中)	三	夜會	(中)	六	(やす)靖國神社	(上)	二〇	
門札	(中)	六	夜會結び	(中)	三	(やす)耶蘇教	基督教を見よ		
(もも)桃見	(下)	一八	(やが)矢がすり	(中)	三	(やだ)矢大臣	(中)	一五	
桃湯	(中)	二	(やき)焼芋屋	(下)	四	(やつ)奴島田	(中)	三	
			(やく)厄年	(上)	一	奴傘	(中)	三	
						(やと)雇人	(上)	六	

雇人請宿	(上) 三六	(やほ)八百屋	(中) 一五	やりいか	(中) 一六
(やな)谷中の塔	(上) 二六	八百屋物	(中) 一四	(ゆ)	
谷中共葬墓地	(下) 三五	八百屋お七の墓	(上) 二四	(ゆう)遊獵	(下) 一九
柳川一蝶齋	(下) 三六	(やま)山の手	(中) 二二	(ゆか)湯灌	(上) 七六
(やね)屋根	(中) 八三	山高帽子	(中) 二二	(ゆき)雪達摩	(下) 二七
屋根船	(中) 二六	山鯨	(中) 一四	(ゆき)雪の兎	(下) 二七
(やの)やの字結び	(中) 三三	山彦秀次郎	(下) 三三	雪の兎	(下) 二七
(やは)矢筈格子	(中) 三三	山田流	(下) 三三	雪うち	(下) 三六
矢筈がすり	(中) 三三	山勢松韻	(下) 三三	雪見	(下) 三三
(やば)矢場	(下) 二八	山登萬和	(下) 三三	(ゆき)遊山船	(中) 二六
矢羽小紋	(中) 三三	山室保嘉	(下) 四〇	(ゆし)湯島神社	(上) 二六
(やひ)矢拾ひ	(下) 二八	山脇元清	(下) 三三	(ゆぞ)柚子湯	(中) 二七
(やぶ)籾入	(中) 三三	山本東	(下) 三三	(ゆぞ)湯始	(下) 三三
やぶかうじ	(下) 三三	(やみ)闇汁	(中) 一五	(ゆで)ゆであづき	(中) 二六
屋根舞	(中) 九〇	(やり)鎗祭	(中) 一四	(ゆひ)結納	(下) 三三
結び綿	(中) 二四	(よぎ)夜被	(中) 二六	(よめ)嫁入	(下) 四
(ゆび)指環	(中) 一四	(よし)吉原	(下) 三三	(よみ)夜宮	(上) 三三
指相撲	(下) 一四	吉原下駄	(中) 一四	讀賣	(上) 三三
(ゆふ)夕涼み	(中) 二〇	吉田追風	(下) 三三	(よる)夜席	(下) 八
(ゆや)湯屋	(上) 三三	芳村伊十郎	(下) 三三	(よを)節折の式	(中) 二七
(よ)		芳村伊三郎	(下) 三三	(ら)	
(よう)洋食	(中) 一五	(よせ)寄席	(下) 三三	(ら)雷除の咒	(中) 四〇
洋服	(中) 三三	(よた)夜鷹そば賣	(上) 一四	(ら)らうや	(上) 四
洋樂	(下) 四四	(よつ)四谷區	(上) 三三	(らく)落語	(下) 九
楊弓店	(下) 二六	四谷區の神社	(上) 三三	らつ)喇叭賣	(下) 一五
養老瀧五郎	(下) 二六	四谷區内の縁日	(上) 一四	(らん)蘭の流行	(下) 三三
(よか)よかく飴	(上) 一四	四谷天王	(中) 一四	らんぶ	(中) 九
(よき)餘興競走	(下) 三三	(よね)米の祝	(下) 三三	らんだつ	(中) 三三
		(よひ)宵越の錢	(上) 三三		

東京風俗志下の卷正誤

頁	行	誤	正
一一	五	ひちや	しちや
三三	五	その一派なる	常磐津の一派なる
四〇	二	せられたると	せられたりと
四二	二		「荒木古童」ノ下ニ
五八	七	鈍根	(竹翁)ノ二字ヲ加フ
七四	〇		綴根
八五	一	東京大角力協會	東京大角力協會
一一八	六		矢場ノ傍訓「や」ノ下
一三五	一		ニ「ば」ノ一字ヲ加フ
一四六	一	おさまつた	竹柏ノ傍訓「さ」ノ上
一五二	三	組立繪	ニ「な」ノ一字ヲ加フ
一五五	三	組立繪	をさまつた
			木苑
			組上繪

明治卅五年八月十九日印刷

東京風俗誌下巻奥付

明治卅五年八月二十三日發行

定價金七拾五錢

著者 平出鏗二



東京市神田區裏神保町九番地

發行者 合資 富山房

富山房社長

代表者 坂本嘉治馬

東京市日本橋區藥研堀町三十三番地

印刷者 仁科衛

全所

印刷所 厚信者

發兌書肆

(明治廿九年六月設立)

合資 富山房

(長距離加入電話本局一〇三六番)



22-27
A 1079



